

一般演題 3-3

当院における高気圧酸素治療の治療途中での中断症例について

齋藤謙一 田中亜弥 外口健太郎 中森和樹
公益財団法人昭和会 今給黎総合病院 臨床工学部

【はじめに】当院は、1999年に第1種治療装置を導入し2006年に第1種装置を追加し2台体制で本年7月までに2,348人、24,116回の治療を行ってきた。この間、止むを得ず中断減圧した症例が313例あった。これら进行分析し検討したので報告する。

【対象及び方法】当院にて1999年6月から2010年7月まで11年間に2,348人(男1,447人、女901人)、平均63.5歳に対して施行した24,116回のうち治療途中で減圧した313例を対象とした。

【結果】治療途中での減圧は233人(9.9%)313例(1.3%)であった。中断の方法は全て手動減圧(5分)で行った。中断理由は気分不良・拒否が27%と最も多かった。(図1)

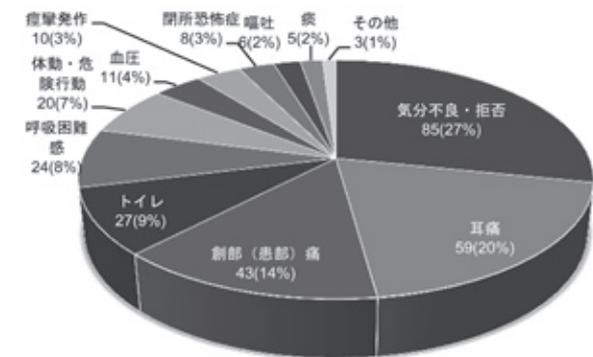


図1 中断理由

適応疾患別中断件数(図2)では、腸閉塞が最も多く次いで脳血管疾患系であった。

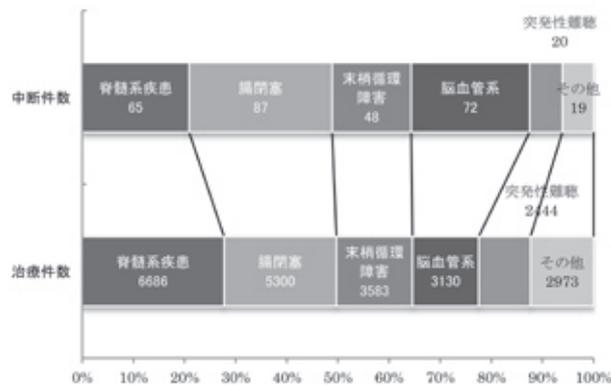


図2 適応疾患別の中断割合

適応疾患別の中断理由を図3に示す。

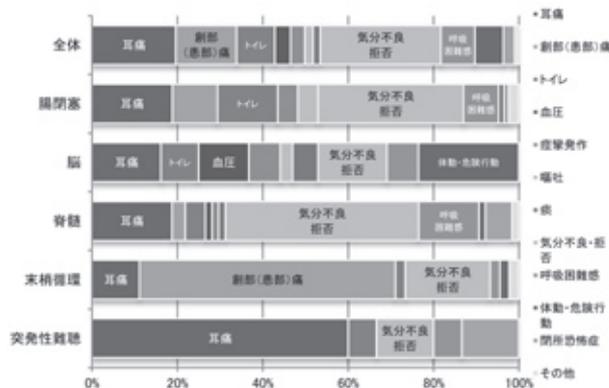


図3 適応疾患別の中断理由

また、我々は患者の状況を把握するためにアンケートを行った。新規患者64名に対する結果の一部を図4に示す。

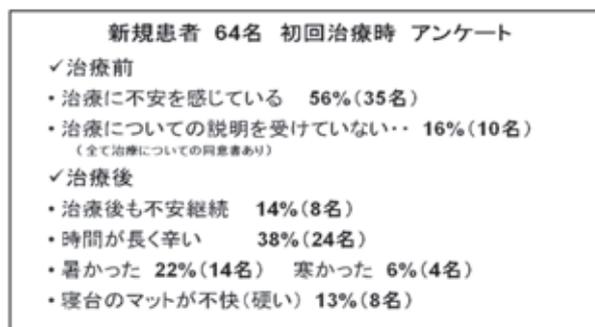


図4 アンケート結果

【考察】中断理由では気分不良・治療拒否が最も多かった。アンケート結果から患者は治療内容の理解不足から強い不安を持っており、病状による苦痛や不安に加えて高気圧酸素治療の苦痛や時間・環境への不満から気分不良や拒否につながると考えられる。このことから、患者への十分な説明と病棟スタッフとの連携、また治療中のTVや音楽の視聴、治療室内の温度調節によるタンク内の寒暖調整など治療環境整備などで低減できるのではないかと考えられる。また、疾患による特徴を踏まえ治療中の患者の観察を密に行い高気圧酸素治療室スタッフが統一した対応ができるよう訓練されることが重要と思われる。

文献

- 1) 恩田昌彦：高気圧酸素治療法入門，第3版，高気圧酸素治療の副作用，73-96，2002
- 2) 高気圧酸素治療安全協会：高気圧酸素治療のQ&A特集改訂版 平成5年～平成20年集，2009